

平成28年度決算状況

ふっかちゃんと一緒に『深谷市のお財布』の中身を見てみよう！

市では、予算の執行状況や決算について公表し、皆さんが納めた税金などがどのように使われているのかをお知らせしています。

今回は、平成28年度の決算状況をお伝えします。

問い合わせ 財政課 ☎574 - 6632

※ページ内の金額や数値は、四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。



一般会計決算の中身

市のお金の使い道を教えてください！

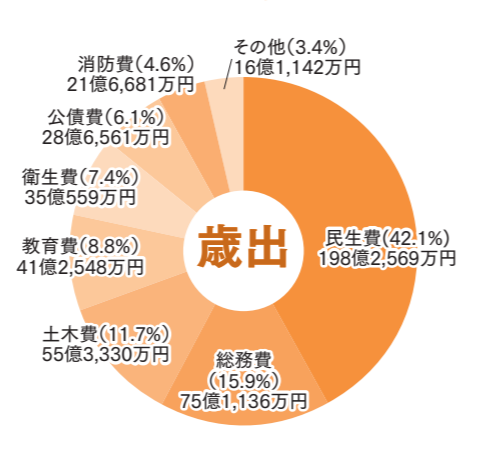
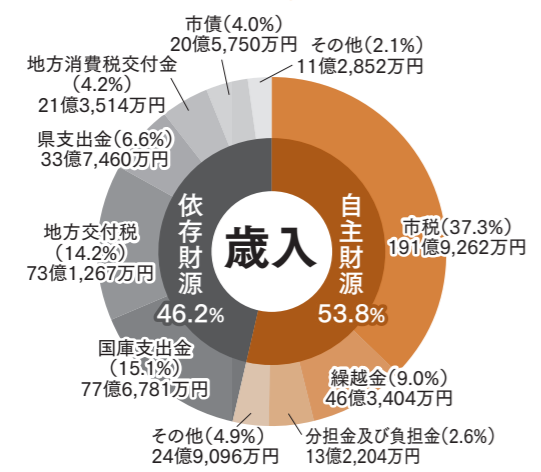


市の基本なお財布である『一般会計』では、学童保育室の整備や高機能消防指令システムの更新など、子育て支援やみんなの安全・安心な暮らしを支えるための事業などにお金を使いました。

一般会計決算額の内訳

歳入 514億1,590万円
(前年度比49億1,990万円減)

歳出 471億4,526万円
(前年度比45億5,650万円減)



市税は、個人市民税や固定資産税が増え、市の権限で調達できる『自主財源』の比率が、昨年度(49.3%)と比べて増えました。全体では、雪害対応完了による県支出金や地方交付税の減少などにより、前年度と比べて49億1,990万円減りました。

臨時福祉給付金等給付事業、年金生活者等支援臨時福祉給付事業などが増えた一方、雪害対応完了による農業施策推進事業の減少、衛生センター再整備完了に伴う事業費の減少などにより、全体では前年度と比べて45億5,650万円減りました。

歳入・歳出の差額は？ 各種事業の着実な推進を図りつつ、必要最小限の予算執行に努めた結果、生じたものです。なお、やむを得ない事由により、翌年度へ繰り越した事業費も含まれています。この差額は、翌年度以降の各種事業の財源として活用されます。

市民1人あたりで計算すると… (3月31日現在の人口144,425人で計算)

- 市民1人あたりが負担したお金は約**13.3万円**
- 市民税 約6.1万円
- 固定資産税 約5.9万円
- 市たばこ税 約0.7万円
- 都市計画税 約0.4万円
- 軽自動車税 約0.3万円

都市計画税とは？

都市計画税は、道路や下水道などの整備や、土地区画整理事業に充てるために課税される目的税です。平成28年度は、土地区画整理事業や下水道事業に活用しました。

- 市民1人あたりに使われたお金は約**32.6万円**
- 子育て・福祉 約13.7万円
- 防災・庁舎管理 約5.2万円
- 道路・まちづくり 約3.8万円
- 教育 約2.9万円
- ごみ処理・消防など 約7.0万円

※ページ内の金額や数値は、四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

平成28年度 決算概要



『自主財源の確保』や『公共施設の適正配置』など、歳入・歳出の両面から健全な財政運営を維持する取り組みを進めて、子育て支援や市民の安全・安心を支える事業のほか、水道老朽管の更新など、将来に向けて必要不可欠な事業も着実に進めました。

市のお財布ってどうなっているの？



市の3つのお財布 (会計) の決算額

1 一般会計

福祉・教育・道路整備など、市の基本的な事業を行う会計です

会計	歳入	歳出
一般会計	514億1,590万円	471億4,526万円

2 特別会計

特定の収入で事業を行う会計で、国民健康保険や土地区画整理などの事業があります

会計	歳入	歳出
国民健康保険	188億1,366万円	185億9,428万円
後期高齢者医療	23億8,933万円	23億7,919万円
国済寺土地区画整理	5億6,846万円	5億1,069万円
岡中央土地区画整理	4,376万円	3,965万円

3 企業会計

独立採算を原則として事業を行う会計です

会計	収入	支出	
水道事業 (税込)	収益的収支	27億8,290万円	28億2,500万円
	資本的収支	4億8,667万円	14億4,088万円
下水道事業 (税込)	収益的収支	35億 463万円	33億3,480万円
	資本的収支	22億9,949万円	30億9,085万円

※収益的収支の支出額は現金支出を伴わないものも含まれるため、収入額より大きくなる場合があります。また、資本的収支の収入額が支出額に対し不足する額は、各会計の内部留保資金などで賄っています。

将来を見据えた 取り組み

将来の深谷市のために
取り組んでいることは
ありますか？



将来にわたり安定した財政運営を行うために必要な『自主財源を確保する取り組み』を進めています。

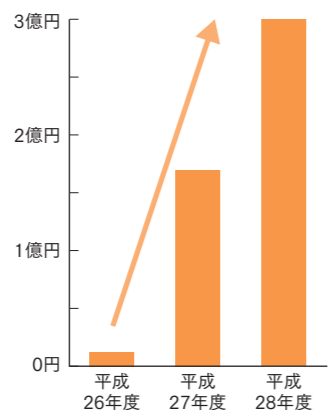
ふるさと納税の推進

平成27年7月からふるさと納税の内容を見直し、平成28年度には約3億円の寄付金が集まりました。これは県内で2番目に多い金額で、貴重な財源となっています。

平成28年度
ふるさと納税
県内2位！



ふるさと納税額の推移



ここがポイント！

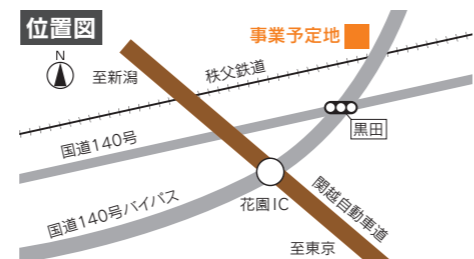
市では、単に寄付金を集めることを目的とするのではなく、ふるさと納税のお礼を通じた、地域資源の発掘、地域における商品開発力の向上、事業者間連携の促進、市内事業者の売り上げ向上も目指しています。

産業拠点推進事業

花園インターチェンジ周辺にアウトレットモールを誘致し、その集客力を生かして、農業と観光に資する取り組みを行っていきます。

この取り組みにより、民間事業者からの地代収入、固定資産税などの税収増などが見込まれ、自主財源の確保を目指しています。

また、雇用の創出や、農業や観光振興策などにより産業が活性化されることで、大きな経済波及効果も期待されます。



主要事業と決算額

市内全小学校の敷地内(隣接)に学童保育室を整備
1億7,205万円



▲上柴東小学校敷地内に建設された『上柴東学童保育室』。ほかに、余裕教室を活用して、川本南学童保育室と深谷西学童保育室を整備しました。

コミュニティバス『くるリン』を定時定路線・事前予約型バスとして運行
8,421万円



◀『くるリン』は、地域住民を支える大切な移動手段です。ワンボックス型の車両には、車いすに乗ったままでも乗り降りできるリフトも付いています。

119番通報の受け付けや、出場指令に必要な高性能消防指令システムの入れ替え
2億9,026万円



▲最新の高性能消防指令システムを導入。大型のモニターに消防車などの出場状況や災害現場の映像が表示されることで、よりの確で素早い消防・救急活動ができるようになりました。

▶聴覚・言語・音声に障害があり、音声による119番通報が困難な方が、パソコン・スマートフォン・携帯電話から電子メールで119番通報ができるようになりました。
※事前に手続きが必要。詳しくは指令課(☎571-0119・FAX571-5898・✉f-sirei@city.fukaya.saitama.jp)へ



公共施設の適正配置を進め、施設管理費用の削減に努めています。

公有財産の有効活用

平成28年に策定した『公共施設等総合管理計画』に基づき、市役所第2庁舎、産業会館など14施設の廃止や売却などを行い、その維持管理にかかる年間4億円の費用を削減しました。



◀平成28年には、建物の解体と跡地活用を条件に公募で選ばれた赤城乳業(株)に、第2庁舎を売却しました。跡地には、『研究開発センター』機能を備え付けた、赤城乳業(株)の本社が建設されます(平成30年3月完成予定)。

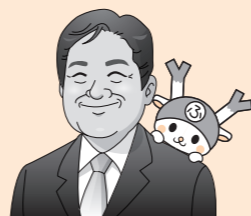
私たちにも
できることは
ありますか？



皆さんにも、できることはあります。
例えば、医療費の増加は財政課題の1つですが、一人ひとりが病気の予防や早期発見・治療を心がけることで、医療費を減らすことができます。

市では、健診の受診や健康づくりのきっかけとなる健康マイレージ事業『ためるんピックふかや』を実施していますので、ぜひ活用してください。

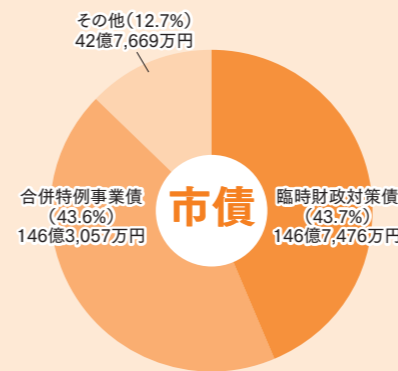
将来にわたって、皆さんとともに深谷市も『元気』でありつづけるために、これからも健全な財政運営に取り組めます。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。



深谷市長 小島進

市の借入額

市民1人あたりの市債残高は、県内40市中14番目に少ない額です(平成27年度)。



市債 335億8,201万円

返済する費用の全額または7割が地方交付税に算入され、市にとって有利な制度である『臨時財政対策債』『合併特例事業債』の借入れが、市債の約9割を占めています。また、市民1人あたりの市債残高は、県内40市中14番目に少ない額です(平成27年度決算)。



借入れは『公平な負担』に必要不可欠です！

建物や道路などは、整備に多額の費用がかかりますが、整備後は何十年にもわたって使われるものです。そのため、整備した年の市民だけでなく、その後利用する市民にも公平に費用を負担してもらうために、借入れをして整備しています。

決して『資金がないから借入れをする』のではなく、世代間で公平に負担するためには、借入れは必要不可欠なものです。

※ページ内の金額や数値は、四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。